2026 AUTUMN
Vol.494
11月号

Dokkyo Picks

獨協と未来の架け橋となる広報誌

国際交流センター所長が語る
獨協大学の国際交流

学生が語る
2つのプログラムの今

卒業生に聞く! 未来への羅針盤

CAMPUS NEWS
「学生による授業評価アンケート」結果報告
ぶらりらいぶらり
DOKKYO SDGs



Dokkyo Picks

国際交流センター所長が語る 獨協大学の国際交流

世界への一歩を
安心して踏み出せる場へ



国際交流センター所長
浅岡 千利世（あさおか・ちとせ）

外国語学部英語学科教授

「語学の獨協」として知られる獨協大学。大学と海外をつなぐ獨協大学ならではの国際交流センターの強みや活用法を聞きました。

非英語圏にも広がる、留学先の選択肢

国際交流センターには、大きく3つの役割があります。一つ目は、海外留学を希望する学生の支援です。留学先や時期、必要な語学力や成績、費用、奨学金などについて相談できます。留学経験をその後の学びやキャリアにつなげるためにも、準備は早いほどスムーズです。少しでも留学を検討するなら、1、2年次のうちから気軽に相談に来てください。

最近は、非英語圏の大学で英語で授業を受ける留学も増えています。ヨーロッパや東南アジアなどの歴史や文化に触れながら、英語で学べる魅力があります。留学先によっては、英語圏に比べて学費等の負担を抑えられる場合もあります。以前から非英語圏の大学とも積極的に協定を結んできたため、留学先の選択肢が多いことは獨協大学の強みです。また、英語だけでなく、ドイツ語、フランス語、スペイン語、韓国語、中国語の各言語圏への留学についても、言語ごとに担当者がいるので、どんな小さな疑問でも相談してみてください。

学内や地域にも異文化との出会いがある

二つ目の役割は、学内で異文化交流の機会をつくることです。留学生と出かけるバスツアーなど、さまざまな企画を実施しています。国際交流センター、日本語教育オフィス、ICZが連携するグローバルフロンティアには、日常的に多言語や異文化に触れられる環境があるので、空きコマや授業後などに立ち寄ってみてください。

三つ目は、大学と地域、世界をつなぐことです。毎年6月に開催する国際交流フェスティバル「草加国際村一番地」では、学生や留学生、地域の方々が交流します。企画側でも参加側でもよいので、異文化交流の場として楽しんでほしいと思います。

獨協の国際交流は、語学が得意な一部の学生だけのものではありません。異なる文化や言語を持つ人との出会いは、自分自身を客観的に見つめ、新しい考え方や可能性を知るきっかけになります。まずは学内のイベントに参加し、興味が広がったら、短期留学や海外ボランティアに挑戦する。そんな積み重ねを大切にしてほしいです。

今後は、協定校のさらなる拡充やダブルディグリー・プログラムなど、留学の選択肢をさらに広げていきます。2027年度4月からはグローバル人材育成プログラムが始まり、海外体験も必須要件となるため、国際交流センターが提供する各種プログラムをぜひ活用してください。国際交流センターの職員は、世界各地の大学やプログラム担当者と情報交換を重ね、学生に合った機会を日々探しています。興味はあるけれど、語学力や費用が心配――。国際交流センターは、そんな不安を解消し、誰もが安心して小さな一歩を踏み出せる場所でありたいと考えています。

AFTER TALK

こんなところでも国際交流！
Dokkyo Global House

外国人留学生と日本人学生が一緒に生活できる国際交流宿舎「Dokkyo Global House」では、日常生活の中で習慣や文化の違いなどを知り、相互理解を深められます。

続きは… note

非英語圏への留学で可能性が広がった。英語で学び、ドイツ語にも挑戦





▲マールブルクのハロウィンパーティーで



▲伝統衣装で訪れたオクトーバーフェスト

［　　］［　　］さん

▶留学先
ドイツ　マールブルク大学（認定留学）
▶留学期間
2025年4月～2026年2月（11カ月間）

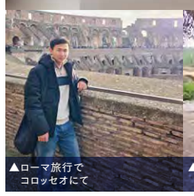
大学で履修した第二外国語は中国語でしたが、国々がつながり、多様な文化に触れられるヨーロッパにも興味がありました。英語留学を検討する中で、国際交流センターの方から、ドイツには英語を話せる人が多いと聞き、授業でクラシック音楽やドイツ文化を学んだこともあったため、留学先をドイツに決めました。

ディスカッション中心の少人数クラスで苦労したのは、周囲の英語のスピードについていくこと。予習や、授業を録音しての復習を徹底し、日常生活でも自分から積極的に話しかけることで、少しずつ発言できるようになりました。また、第三言語となるドイツ語を、ドイツ人の先生から英語で学ぶ授業もあり、互いに英語のネイティブではないからこそ、理解しようと努力する中で、言語だけに頼らない「伝える力」も磨かれました。

3～4カ月経つと、現地での生活や言語にも慣れ、シェアハウスでの生活や友人たちとの旅行を楽しむ余裕も。留学中の経験から、英語を活かせる航空業界を志すようになり、卒業後のキャリアにつながりました。

「やってみたい」を行動に。スペイン留学がくれた自信





▲ローマ旅行でコロッセオにて



▲タラゴナの近くにある水道橋

［　　］［　　］さん

▶留学先
スペイン　マラガ大学（交換留学）
▶留学期間
2025年9月～2026年7月（11カ月間）

大学でスペイン語を学び始めたことをきっかけに、現地で学んでみたいと考えるようになりました。国際交流センターで調べると、交換留学が可能なスペイン語圏の協定校の中でも、マラガ大学は学部の選択肢が幅広く、治安も良好だとわかり、留学先に決めました。

現地では、スペイン語で歴史や観光などの授業を履修。速いスピードで進む講義や大量の資料読解に苦労し、最初の学期では単位を落とす悔しさを味わいました。そこで、同じ地域に留学していた他大学の日本人学生と悩みを共有して気持ちを切り替え、次の学期では単語の暗記に力を入れるなど学習方法を工夫。その結果、すべての科目で単位を取得でき、大きな自信につながりました。

また、留学という限られた時間だからこそ、「やりたいことはすぐやろう」と考えるようになり、関心のあったスペイン国内外のさまざまな場所に積極的に足を運びました。歴史的な遺産を見たり、その土地の食事や暮らしに触れたりしながら、現地の人とも交流を深められたことが印象に残っています。

ツーリズム・キャリア・プログラム

フィールドワークや現場での実習が豊富に用意され、「語学の獨協」ならではのキャリアと結びついた実践的な学びができるプログラム。

Dokkyo Picks

学生が語る 2つのプログラムの今



実践型授業で英語力と対話力アップ!



フィールドワークで魅力を発見!

ツーリズムの多面性を学ぶ

このプログラムを履修したのは、ツーリズムの学びを切り口に視野を広げ、卒業後の進路に活かしたいと考えたからです。「フィールドワーク論」では1日かけて街を歩きました。風景や暮らしに目を向けることで、普段は見過ごしてしまう街の新たな魅力を発見。新鮮さと面白さを感じました。さまざまな科目を通して、ツーリズムは単なる旅行にとどまらず、人や社会が抱える問題とも深く結びついていることを知り、多角的に捉えられるようになりました。

ツーリズムで語学力も磨く

ホテルで受けたホスピタリティあふれる接客に感動し、観光業界に興味を持っていました。そこで、プログラムを通して観光に関する専門知識やスキルを身につけたいと考え、履修を決めました。印象に残っているのは「English for Tourism and Hospitality I～Ⅱ」です。ツーリズムの現場で使われる専門的な英語を学ぶ授業で、さまざまなシチュエーションを想定したロールプレイングを通して、語彙や表現を実践的に身につけることができました。語学力をツーリズムという専門的な切り口からさらに磨くことができ、学びの幅が広がりました。

将来を柔軟に描けるように

「ツーリズム・キャリア実習」では、ホテル・航空・物流など毎回、異なる業界の講師から現場の話を聞く機会がありました。本格的な就職活動が始まる前に、これまで関心のなかった業界についても知ることができ、将来の選択肢が広がりました。プログラムで得た学びや経験を自分の強みとして、今後の就職活動に活かしていきたいです。

多角的な視点が身についた!



培った対話力と行動力を活かす

空港を訪れて現役の客室乗務職の方から学ぶなど、アクティブ・ラーニング型の授業が多く、グループワークや自分の意見を述べる機会も豊富でした。こうした経験を通して、コミュニケーション力や相手の立場を考え行動する力が向上。将来はこれらの力を活かし、観光業界で活躍したいです。

英語力と行動力が身についた!



海外実践プログラム

プログラムの一環である「海外インターンシップ」は、オーストラリア、スペインなどで働き、ビジネスとして使える英語力や教養を磨きます。



海外インターンに行った人!

さん



これから行く人!

さん

対談

行ったから見えたこと、これから行くから知りたいこと

仕事を通じて知った、英語の難しさ

村垣 オーストラリアのシドニーで予定していた3カ月の滞在を延長して5カ月間、ダイビングショップで勤務しました。主な業務は、ツアーの準備、器材の片付け、受付などショップ運営に関わる仕事で、週4日勤務していました。

[redacted] インターンシップ先はどのように決まるのですか。

村垣 渡航前はマーケティング職を希望していたのですが、インターンシップ先を決める面談で、趣味欄に書いた「スキューバダイビング」に担当の方が目をとめ、ダイビングショップを提案してくれました。

[redacted] 英語で仕事をする大変さは感じましたか。

村垣 そうですね。インターンシップを始めた当初は、自分の英語力と仕事で求められる英語力とのギャップに苦労しました。オーストラリア英語のアクセントや会話のスピード感についていけず、お客さまの質問を聴き取れないことも。ダイビングの専門用語やビジネス英語への対応も必要でした。

[redacted] どのように乗り越えたのですか?

村垣 失敗を恐れず積極的に接客したり、わからない表現はスタッフに聞いたりして、とにかく英語を使い続けることを意識しました。渡航前にインターンシップ先のSNSや動画を見ておくのもおすすめです。現地での働き方や使われている英単語を知ることができ、役立つと思います。

[redacted] なるほど。私は教育に関心があり、現地の幼稚園や中学・高校で日本語を教える予定です。渡航前から、教育関連の動画や情報に目を通していますが [redacted] さんのお話を聞いて、さらにしっかり準備しておこうと思いました。

村垣 ぜひぜひ! [redacted] さんは、現地で「これだけは挑戦してみたい」と考えていることはありますか。

[redacted] はい。実は入学前からこのプログラムのことを知っていて、これまで身につけてきた英語力を活かしたいと考え、海外インターンシップを選びました。留学はどちらかというと「学び」がメインですが、インターンシップは「自分から発信する」ことが多いと捉えています。現地では積極的に英語を使って発信し、相手にわかりやすく伝える力を磨き、実務体験を通じてさまざまな表現を身につけたいです。

海外で働く経験が、将来のキャリアにつながる

[redacted] 私はプログラムへの参加をきっかけに、考え方や行動がアクティブになりました。帰国後すぐに宮古島に行き、ダイビングインストラクターの資格を取ったのも、その一つです。将来についても、以前考えていた事務職から、人と関わる営業職へと志望が大きく変わりました。これからも変化や困難を恐れず、新しいことに挑戦しながら成長し続けたいです。

[redacted] 大学生だからこそ挑戦できるプログラムなので、今は期待でいっぱいです。語学力の向上はもちろん、海外で働くことを将来の選択肢として考えられるのも魅力だと感じます。また、渡航前に職場や住まいが決まっているので、安心して挑戦できます。現地では、さまざまな文化や価値観に触れながら、一歩踏み出す姿勢を身につけたいです。

[redacted] [redacted] さんは準備をしっかりしているし、目標もはっきりしているから、きっと大きく成長して帰国すると思います。実際に行ってみて初めてわかることも多いので、「まず飛び込んでみる」という気持ちで、多くの学生に挑戦してほしいプログラムです。

在学生×卒業生

卒業生に聞く！

未来への羅針盤

Compass to the future

Vol.43



「苦手」から始まった英語が世界で働く扉を開いた

三菱鉛筆株式会社
岩﨑 快星さん
（法律学科 2019年9月卒業）

もともと苦手意識のあった英語を得意に変えることを目標に過ごした学生時代。ニュージーランドへの長期留学も経験し、英語力を大きく伸ばした。現在は、その英語力を武器に、世界各地へ販路を広げる仕事に携わっている。

各業界で時代をリードする存在として活躍する卒業生にインタビュー。今回は、東南アジアや南米をはじめ、世界各地を舞台に自社文房具のさらなるシェア拡大に挑む岩﨑快星さんにお話をうかがいました。

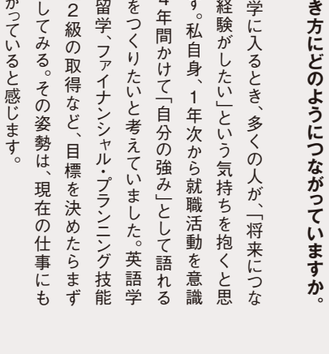
現在の仕事を選んだ理由と、仕事内容について教えてください。

在学中に身につけた英語力を活かせる仕事に携わりたいという思いがあった中で、世界各地に文房具という身近な製品を届ける仕事に魅力を感じ、入社を決めました。穏やかで温かい社員がつくりだす社風にひかれたことも理由の一つです。入社後はまず、台湾と韓国を担当し、1年後には東南アジアグループに異動。マレーシア、インドなどを担当しました。現在はブラジルやチリなど南米10カ国を担当し、販売拡大に取り組んでいます。具体的には、製品の輸出から販売までの仕組みづくりをはじめ、新製品導入に向けた市場調査やニーズ分析、販売戦略の立案、新たな販路や代理店の開拓など、幅広い業務を担っています。

仕事で大変なことと、やりがいを教えてください。

仕事でメインになるのは、現地の販売代理店との交渉や関係構築です。当社の製品は、日本では高い知名度がありますが、海外ではまだ十分に知られていない地域も少なくありません。そうした市場で製品を取り扱ってもらうためには、製品の魅力を的確に伝える力や、相手のニーズを踏まえて交渉する力が求められます。正解がない中で、どうすれば販売を伸ばせるのかを考え、戦略を立てて試行錯誤を重ねることの難しさと同時に面白さを感じています。また、目的意識を持って新たな施策に挑戦し、その成果が売り上げや市場拡大につながったとき、大きなやりがいを感じます。

現在の仕事において、心がけていることはなんでしょうか。



自ら課題を見つけて解決策を考え、その実現に向けて主体的に行動することです。販売拡大における大きな課題の一つが、販売網の構築です。自社製品をより多くの文具店に効率よく届けるにはどうすればよいか。そのヒントを得るため、現地への出張では文房具に直接関係することだけでなく、どんな小さな情報にも目を向けるようにしています。例えば、ブラジルは税制度が複雑で、日本と同じ価格感覚では、現地での販売価格が想定以上に高くなることもあります。こうした現地ならではの事情を一つひとつ把握し、そこから課題を見つけ、販売戦略に活かすことを意識しています。また、国や文化、商習慣の違いを理解して、相手の立場に立って信頼関係を築くコミュニケーションや、新しいことを楽しむ姿勢も大切にしています。

学生時代に力を入れて取り組んだことを教えてください。

英語学習です。獨協大学を選んだ理由の一つに、語学教育が充実していることがありました。実は、大学に入学するまで英語は苦手で、センター試験（現 大学入学共通テスト）でも英語に苦戦したほどです。だからこそ、大学でしっかり学んで苦手意識を克服できれば、自分自身の成長にもつながると考えました。獨協大学の全学共通カリキュラムには英語科目も豊富にあり、1年次から積極的に履修しました。2年次からは他学科の学生とも一緒に学び、周囲との力の差を感じることもありましたが、それが逆に「自分が一番になれるくらい英語を学ぼう」という目標につながりました。学びを重ねるうちに英語そのものが楽しくなり、3年次にニュージーランドへ留学。大学生活の大きな転機となりました。

現地では、多国籍の学生たちとともに学び、週末はフェリーで離島へ釣りに出かけるなど、充実した時間を過ごしました。最初の1カ月はホームステイ、その後は一人暮らしを経験し、海外で自立して生活する力も身につきました。英語でのコミュニケーションに自信が芽生え、「グローバル企業で働きたい」という目標ができたのも、この留学がきっかけです。



大学時代の学びや経験は、現在のキャリアや生き方にどのようにつながっていますか。

大学に入るとき、多くの人が、「将来につながる経験がしたい」という気持ちを抱くと思います。私自身、1年次から就職活動を意識し、4年間かけて「自分の強み」として語れるものをつくりたいと考えていました。英語学習や留学、ファイナンシャル・プランニング技能検定2級の取得など、目標を決めたらまず挑戦してみる。その姿勢は、現在の仕事にもつながっていると感じます。

今後の目標を教えてください。

社会人になってからも、学びは続きます。担当国で必要となるスペイン語、店頭でより効果的に製品を見せる陳列方法、目標とする先輩社員の商談の進め方など、学ぶことはさまざまです。そうした日々の積み重ねの先に、直近の目標として海外への駐在を見据えています。現地で責任ある仕事を任され、成果を上げることはもちろん、後輩社員にもよい影響を与えられる存在になりたいです。

AFTER TALK

大学時代の経験が
社会へ踏み出す自信に

学生の皆さんには、大学時代にさまざまなことに挑戦してほしいと思います。もちろん勉強も大切ですが、「大学時代にこれに打ち込んだ」と自分の言葉で語れる経験があれば、それが自信となり、胸を張って社会への第一歩を踏み出せるはずです。



本誌に載せきれなかった記事をnoteに掲載しています!
ぜひご覧ください!

note

草加高校との高大連携プログラム「大学での学びを体験しよう!」を実施

7月14日、経済学部国際環境経済学科の藤山ゼミは、草加高校の1・2年生49名を迎え、高大連携プログラム「大学での学びを体験しよう!」を実施。藤山ゼミの学生が中心となって企画・運営し、大学生と高校生によるグループ交流を取り入れながら、大学での学びの特徴を知り、専門的な学問の面白さを体験してもらうことを目指した。

プログラムは3部構成で、第1部では藤山教授が大学での学びの特徴を解説。第2部ではゼミ生がゲーム理論を身近な例から紹介し、高校生に実際にゲームを体験してもらった。第3部ではゼミ生が大学におけるAIとの向き合い方や留学・英語学習について説明した。

当日は大学生と高校生の活発な交流が生まれ、高校生からも多くの好意的な感想が寄せられた。高校生に大学での学びを具体的に知ってもらうとともに、ゼミ生にとっても自らの学びや大学生活を見つめ直す貴重な機会となった。



2026年度「子ども大学そうか」を開催

7月18日、西棟で「子ども大学そうか」の入学式と講義が行われた。「子ども大学そうか」は、草加市と本学が共催する社会教育事業で、今年で12回目の開催となり、抽選で選ばれた市内の小学5・6年生計50名が本学キャンパス等で全5回の講義と特別講座を受ける。入学式では前沢浩子獨協大学学長が挨拶し、“学生” 代表 (子ども大学そうかでは児童を学生と呼ぶ)が大学で学ぶ意気込みを述べた。

安原陽平法律学科教授による講義「子どもの権利を「本気で」考える!―草加市が子どもの権利条例作るらしいよ―」では、大人と子どもの違いや権利について考えた。また、草加市の子どもの権利に関する条例案の一文のより良い表現を検討し、普段あまり意識することのない「権利」について話し合った。



小中学生向け英語講座を実施

7月30日、31日の2日間、天野貞祐記念館ICZで小中学生向け英語講座を実施した。

本講座は、小学5年生から英語が授業科目となり学習時間数が増えた一方で、英語が苦手・嫌いな小学生や授業についていけない中学生が増加しているという背景を受け、ストーリーテリングを活用して英語本来の楽しさを感じてもらうために実施している。河合裕美言語文化学科非常勤講師が担当し、小中学生合わせて31名が受講した。

受講生からは、「ストーリーから学ぶことで発音の仕方や単語の意味などを詳しく知ることができた」といった声も聞こえ、盛況のうち終了した。



ミラノ・ビコッカ大学など2大学と新たに学術交流協定を締結

本学は、5月11日付でロストック大学(ドイツ)、7月6日付でミラノ・ビコッカ大学(イタリア)と学術交流協定を締結した。これにより、イタリアにおける本学初の協定校が誕生した。また、ドイツの協定校は15校目となる。



ミラノ・ビコッカ大学(イタリア)

オープンカレッジ特別講座「戦後政治と日本社会党―野党の存在意義とは何なのか―」を開催

7月11日、E-102(東棟1階)でオープンカレッジ特別講座が開催された。誰でも受講できる生涯学習講座「オープンカレッジ」の無料講演会で、事前の申込みにより348名が受講した。講師は福永文夫名誉教授と村井哲也総合政策学科教授。講座では、再統一以来約40年にわたり第1野党として戦後政治を支えた日本社会党の歴史を紹介しながら改めて野党の存在意義について考察した。

受講者アンケートでは講座内容に満足したという感想が多数寄せられた。



2025年度教育環境改善のための取り組みについて

獨協大学では、2024年度末に実施した「学生による教育環境改善のためのアンケート」の結果を受け、次のように取り組みました。

【2025年度教育環境改善の取り組み】

■学生生活施設等
・学生食堂リニューアル及び各種改善対応
・部室の空調設備動作について検討

■履修登録等
・履修登録取消制度に関する検討
・履修登録サービスの向上

■窓口サービス等
・窓口対応のスローガンや方針の共有
・相談しやすい雰囲気づくり

詳細につきましてはこちらをご覧ください。
https://www.dokkyo.ac.jp/about/selfmonitor/selfmonitor.html

第7回日墨学長会議に前沢学長が出席

9月27日から29日まで、筑波大学および在京メキシコ大使館で開催された第7回日墨学長会議に、前沢浩子学長が出席した(浦部浩之言語文化学科教授、大場樹精同専任講師が同席)。



前沢学長は、「包摂的な国際交流を通じた大学の社会的責任」と題する最終セッションに、メキシコ国立自治大学(UNAM)、メキシコ大学院大学(COLMEX)、グアダラハラ大学、上智大学、東京大学の学長・代表者とともに登壇し、「西洋を超えて:ローカルとグローバルの多様性―その双方を包摂する大学を目指して」と題する講演を行った。

講演では、全国でも有数の外国人住民の多い地域であり、埼玉県に位置する本学の立地とその特性を踏まえ、地域社会との交流や、福島県田村市との災害復興に関する協定に基づく交流・協力の取り組みについて、留学生と日本人学生がともに参加し、学びを深める姿も交えて紹介。これらの取り組みは、セッション中の質疑や終了後の意見交換において、出席者から高い関心を集めた。

2026年度9月卒業式・学位記授与式を挙行

9月20日、2026年度9月卒業式・学位記授与式を天野貞祐記念館大講堂で挙行し、108名の卒業生が本学を巣立った。

前沢浩子学長は卒業生たちに向かって、次のように呼びかけた。

「卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。皆さんにお願いしたいのは、これからも『学び続けてください』ということです。アリストテレスは、人間の幸福とは、自ら考え、よりよく判断し、他者とともに『よく生きること』だと考えました。学問とは、知識を得るだけでなく、何が正しいのか、何が大切なのかを問い続ける力を育てることです。AIが多くの知識や情報を与えてくれる時代だからこそ、問いを立て、考え、判断する力が一層重要になります。大学卒業は学びの終わりではありません。これからも学び続け、他者とともによりよく生きることを通して、『学問を通じての人間形成』を続けてください。」

また、卒業生を代表して大内博教さん(経営学科)は「私が大学に入学してから得られたものは何ものにも代えがたい財産です。関わってくださったすべての方々へ心より感謝いたします。皆様方のご健康と獨協大学のさらなるご発展をお祈り申し上げます」と謝辞を述べた。



◆学士
独10名、英17名、仏9名、交6名、言25名、済7名、営13名、環6名、律8名、関4名、総3名

外国語教育研究所　第16回公開講演会を開催

9月26日、外国語教育研究所(所長:岡田圭子経済学部教授)は、筑波大学人間系准教授の徳永智子氏を招き、「外国につながる子どもの支援を再考する―エンパワメントの視点から―」をテーマに、第16回公開講演会をハイブリッド形式で開催した。

徳永氏は、外国につながる子どもたちが抱える「問題」だけでなく、潜在的な「強み」に目を向け、それを引き出す環境を改善していく「ストレングス・アプローチ」と、子どもたち自身の力を引き出す「エンパワメント」の重要性を強調した。

教員、学生、一般の方々を含む計130名の参加があった。質疑応答では多くの質問が寄せられ、充実した講演会となった。



獨協大学英語教育研究会(DUETA)講演会をハイフレックス形式にて開催



8月1日に獨協大学英語教育研究会(DUETA)主催の第29回講演会『英語語彙指導、何をどこまで?:コーパスとCEFRが示す知識の広さと深さ』が開催され、約90名が参加した。講師は、コーパス言語学やCEFR研究を専門とする投野由紀夫氏(東京外国語大学大学院教授)。語彙指導における「語彙の目利き」の大切さが伝えられた。現職教諭の参加者も多く「指導者自身の理解も重要であることを再認識し、理論的に指導できるようになりたい」「普段は学術的なことから離れているからこそ、今回は大変学びの多い講演だった」といった声が多数寄せられた。

活動紹介

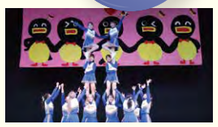
スケート部(男子)アイスホッケー部門

2026年6月28日、「秩父宮杯 第73回関東大学アイスホッケー選手権大会 Bグループ」において、獨協大学男子スケート部・アイスホッケー部門が優勝した。主将の藤田悠大さんは「チーム立ち上げ時の目標の一つを達成できて嬉しい。次は1部リーグへの昇格を目指し、練習に励みたい」と語った。



チアリーディング部　ZEPHYRS

2026年9月27日、「草加Welcomeフェスタ in AKOS 2026」に本学のチアリーディング部が参加し演技を披露した。部長の富田香帆さんは「多くの来場者の方に見てもらえて嬉しい。次は雄飛祭が大きな舞台なのでぜひ多くの方に見にきてほしい」と語った。



昨年の雄飛祭の様子

DOKKYO CAMPUS NEWS 2026, AUTUMN

オープンキャンパスを開催

6月7日、8月1・2・22・23日に、来場型のオープンキャンパスを開催。高校生やその保護者など、5回の開催で合計12,646名の来場があった。

授業体験やキャンパスツアーのほか、在学生トークライブなどの企画に、多くの来場者が参加した。当日の運営にあたった学生スタッフリーダーの菊池真央さん(環4年)は「来場者の方々と交流する中で、学生ならではの視点から本学の魅力を伝えられることに、楽しさとやりがいを感じました」と語ってくれた。次回は2027年3月27日(土)に開催予定。

DOKKYOドイツフェス2026を開催

8月1日、日独の文化交流の促進を目的とし、第3回「DOKKYOドイツフェス2026」を開催した。会場は獨協大学コミュニティスクエア、西棟などで、1,300名超が来場。AIと語学学習を扱う学術的な講演会をはじめ、学生による研究発表、小中学生向け講座などの企画を実施。他にも、ドイツ料理や書籍等の販売で16店舗が賑わった。「ゼミ展示や講演会を通し、多角的にドイツを楽しめた」など好評価を得て、日独を繋ぐ本学の役割を伝える貴重な機会となった。



当日の様子はこちらにも掲載しています。

Dokkyo's Choice

本学の先生方が
執筆された新刊情報をお届け！

2026 AUTUMN

recommend 01



渡部 奈々（言語文化学科非常勤講師）分担執筆
『カタストロフの残響
ラテンアメリカの政治的暴力と日常』

春風社
2026年2月
本体5300円（税別）

recommend 02



大谷 基道（総合政策学科教授）分担執筆
『生活からひもとく政策と行政』

ミネルヴァ書房
2026年3月
本体2800円（税別）

recommend 03



村上 彩（交流文化学科非常勤講師）訳、（アダム・スミス 著）
『本作り500年の歴史
本の印刷からZINEカルチャーまで』

原書房
2026年4月
本体4800円（税別）

recommend 04



本田 浩邦（経済学科教授）分担執筆
『世界のベーシックインカム運動
歴史・現状・展望』

法政大学出版局
2026年4月
本体5800円（税別）

recommend 05



本田 浩邦（経済学科教授）分担執筆
『入門 アメリカ経済
Q&A100〈第2版〉』

中央経済社
2026年4月
本体3200円（税別）

recommend 06



東郷 公徳（英語学科非常勤講師）著
『英語病にご用心!
―体験談から覗き見る語学の達人たちの舞台裏』

開文社出版
2026年5月
本体2700円（税別）

recommend 07



井上 美穂（フランス語学科非常勤講師）共著
『〈日本語訳付〉アンフォ
フランス語でニュースを読む Ⅱ』

駿河台出版社
2026年5月
本体2400円（税別）

recommend 08



岡田 順太（法律学科教授）、ペドリサ ルイス（国際関係法学科教授）分担執筆
『法制度からみる世界の危機対応ハンドブック』

東京大学出版会
2026年5月
本体6800円（税別）

recommend 09



清水 雄大（フランス語学科非常勤講師）共著
『ミシェル・フーコー「監獄の誕生」の50年
一刑罰はなぜ刑務所収容という形態を取るのか』

読書人
2026年6月
本体1500円（税別）

recommend 10



山口 誠（交流文化学科教授）著
『観光を忘れた日本』

講談社
2026年6月
本体1100円（税別）

recommend 11



関根 路代（交流文化学科准教授）分担執筆
『振幅するフロンティア
アメリカ西部と大衆文化』

小鳥遊書房
2026年6月
本体3400円（税別）

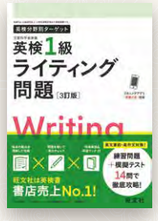
recommend 12



神馬 幸一（法律学科教授）分担執筆
『刑事法の理論と実務 8』

成文堂
2026年6月
本体4200円（税別）

recommend 13



柴原 早苗（英語学科非常勤講師）解説
『英検1級ライティング問題［3訂版］』

旺文社
2026年7月
本体2100円（税別）

recommend 14



ペドリサ ルイス（国際関係法学科教授）著
『【マッピング】国際人権法』

信山社
2026年7月
本体3500円（税別）

recommend 15



矢羽々 崇（ドイツ語学科教授）、山本 淳（ドイツ語学科教授）、渡部 重美（ドイツ語学科教授）共著
『スタート!ドイツ語A1
［音声DL版］』

白水社
2026年8月
本体2200円（税別）

recommend 16



徳永 潤二（経済学科教授）共訳、（ジェラルド・エプシュタイン 著）
『銀行家クラブを解体せよ
―金融をわれらに』

地平社
2026年10月
本体4000円（税別）

2026年度春学期

「学生による授業評価アンケート」結果報告

授業評価アンケートは、授業に対する学生のみなさんの意見を伺い、今後の授業内容の改善を目的として各学期末に実施しています。アンケート結果は授業毎に集約し、授業を担当している教員や授業を開設している学部、学科にフィードバックしています。

2026年度春学期の授業評価アンケートは無事終了しました。大学全体での集計結果をご報告します。

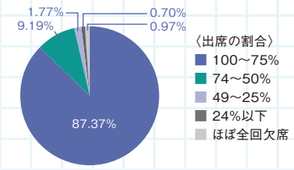
個々の授業の集計結果は、PorTaⅡをご覧ください。

◆実施状況

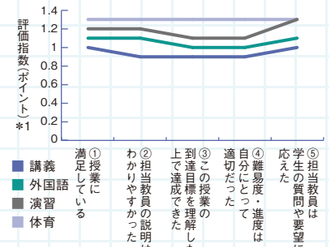
2026年7月10日（金）～2026年7月23日（木）
PorTaⅡにて実施

	対象者数	回答者数	回答率
26年度春学期	8,290	2,602	31.38%
25年度春学期	8,459	3,162	37.38%

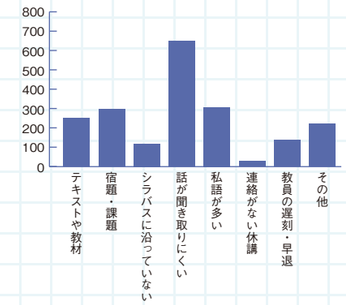
1.出席状況（全学平均）



2.授業評価（授業形態別）



3.各授業の問題点（複数選択可）*2



*1 授業に関する5項目の質問の回答を「そう思う=1.5」「ややそう思う=0.5」「あまりそう思わない=−0.5」「そう思わない=−1.5」「わからない=0」として、平均値を算出し、評価指数（ポイント）としました。

*2 総回答数：18,271件
うち設問への回答 2,000件

訃報

生前のご功績を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

黒川 文子（くろかわ・ふみこ）
名誉教授

2026年7月死去、70歳
2006年　教授
2026年　名誉教授

ぶ-ら-り-ら-い-ぶ-ら-り Vol.120



図書館 X

新たな出会い:さまざまなジャンルの書棚を探索してみよう

図書館が所蔵する100万冊を超える図書のうち、約38万冊が開架スペースにあります。
よく利用するお気に入りの書棚はありますか?ご自身の専門分野だけでなく、
たまには違ったジャンルの書棚を覗いてみませんか?　※棚No.は書棚の側板に表示があります。

1階：棚No.3→絵本

和書と洋書の絵本を集めています（中国語・朝鮮語の絵本は3階中国語・朝鮮語で書かれた図書コーナー棚No.57～58にあります）。外国語の学習にも是非お役立てください。



エリック・カール
『はらぺこあおむし』

2階：棚No.2→就職活動関連資料

就職活動にあたっての心得や、業界・職種研究、資格取得関連本、仕事や働くことについて考える内容の本を中心に、就活入門から面接対策まで幅広く揃えています。キャリアセンター、エクステンションセンターの資料と併せてご利用ください。



SPI対策は人気

3階：棚No.12～13→多読本

課題でお世話になっている方も多いかもしれませんね。多読とは、易しいレベルの本をたくさん読んで、語学力の向上を図る学習法です。英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語の、初級～上級レベルの本を取り揃えています。初級から読み始めて段階的にレベルアップしていくことで、語彙力や読解力が向上します。多読を続けると読むのが楽しくなること間違いなし!



遠くからもよく目立つ

1階：棚No.24～26→日本学

日本の事柄について、日本語と外国語で書かれた対訳本と、英語・ドイツ語・フランス語・スペイン語で書かれた資料を集めています。留学生が日本について学んだり、日本の学生が外国語で日本を紹介したりする時にも役立ちます。日本の伝統行事や芸術はもちろん、お弁当の作り方の本もありますよ。留学生との交流にもご活用ください。



読み物としても面白い

3階：棚No.24→表現主義関連資料

獨協大学図書館では、20世紀初頭にドイツで起こった芸術運動のひとつ「ドイツ表現主義」関連資料の収集に力を入れています。この棚には作品や関連する資料のうち一般的なものを配架しています。バウハウス関連資料やクリムトの作品集もあります。より貴重な資料は、「ドイツ表現主義文庫」コレクションとして、貴重書室に所蔵しています。



クリムトの作品集

各階西側の棚→大型本

各階の西側、研究個室の前にあります。大きくて普通の書棚には入りきらない地図、図版、図録、写真集、美術書などが配架されています。この棚で是非掘り出し物の資料を見つけてください。



ミケランジェロの画集は高さ45cm!

ぜひフォローしてください
大学公式Xのご案内
公式Xで大学の最新情報やキャンパスの魅力を発信中です!



表紙の撮影に協力してくれた学生

[redacted]さん(写真中央) [redacted]
「英語に加えドイツ語もマスターできるよう、精一杯頑張りたいと思います」

[redacted]さん(写真左) [redacted]
「英語教員を目指し、意欲的に英語教育について学んでいます」

[redacted]さん(写真右) [redacted]
「教育を法の視点から考える教育法のゼミで楽しく学んでいます」

第62回雄飛祭 11月7日(土)・8日(日)
今年のテーマは～Beyond Together～

雄飛祭に関わる全ての人に満足していただける雄飛祭を!



マスコットのゆーべいくん

イベント
【両日】■学生団体による展示・学術発表・ステージ発表・模擬店
■エアスライダー／謎解きゲーム／ホラーハウス
■ワクワクワールドゲームズ／国際交流カフェ
■絵馬を書こう in 雄飛祭／DOKKYOフリーマーケット
■コミュニケーションスポーツイベント
■光る飴販売
■革の街 SOKA
【7日】■開祭式
【8日】■閉祭式 ■お笑いライブ

X Instagram HP

第37回 獨協インターナショナル・フォーラム
日豪交流50年の「隠れた主役たち(Unsung Heroes)」
―NARA条約締結50周年を記念して

日豪の歴史を動かしてきたのは、名もなき人々の交流の積み重ねでした。本フォーラムでは日豪交流を実際に担い、支えてきた人々に光を当て、これからの50年を参加者とともに展望します。コーディネーターは外国語学部交流文化学科の永野隆行教授です。

日　　時 ：2026年12月5日(土)9:30～17:15(予定)
開催方法 ：対面・オンライン配信(Zoom)併用
対面会場 ：獨協大学 天野貞祐記念館 大講堂
参加申込 ：大学HP又はフライヤーを確認してください。
オンライン ：参加申込者あてに、後日URLをご案内します。
使用言語 ：日本語・英語(通訳又は翻訳あり)
問 合 せ ：獨協大学国際交流センター

X Instagram HP

DOKKYO SDGs
Sustainable Development Goals



獨協大学で未来を創る子どもたち!
草加市主催「まちのヒーローアカデミー」

草加市が「SDGs未来都市」及び「自治体SDGsモデル事業」に選定されたことをきっかけに始まった「まちのヒーローアカデミー」。草加市在住の子どもたちが、まちで活躍する「輝く大人」から直接学び、自己肯定感や自己有用感を高めながら成長できる機会を提供したいという思いから、誕生しました。

本講座は、経済学部・高安健一教授監修のもと、市内の小学3～6年生を対象に、PBL(Project Based Learning:課題解決型学習)を取り入れた連続講座で、高安ゼミの学生も「輝く大人」の一員となって子どもたちへ分かりやすく話題提供をしながら、学びを深めていきます。

活動の締めくくりとして、子どもたちが「まちをより良く・面白くするアイデア」を自ら考えます。そのアイデアをカタチにして、2027年2月11日にコミュニティスクエアにて、大人たちの前で子どもたちが発表します。ぜひお越しください。

獨協大学学生サポート寄付金事業

本事業は、「よりよい社会の構築に貢献する人材」を育成すべく、国際化推進、地域連携・地域貢献、学友会活動、自律学習など、学生の活動全般を広く永続的に支援することを主眼としています。詳しくは、本学ホームページをご覧ください。

※法人の方は直接お問合せください。　所管　獨協大学総合企画課　TEL.048-946-1635　https://www.dokkyo.ac.jp/donation/

(2026年度事業計画へのご協力のお願い)

図書館は、2007年竣工の天野貞祐記念館に移転後、2027年に開館20周年を迎えます。基本コンセプトである「入館しやすく、滞在しやすい図書館」をさらに発展させ、アクティブ・ラーニングスペースなど互いの学びを刺激しあう空間、来館する度に新しい印象を与える空間、利用者がお気に入りの場所を見つけられる空間にアップデートするとともに、バリアフリー化も進めます。

学修環境の一層の整備に努めてまいりますので、皆さまのご協力をお願い申し上げます。

図書館リニューアル第1期工事完了しました

編　　集　総合企画課(中央棟2階)　TEL.048-946-1635　kouhou@stf.dokkyo.ac.jp

学生記者[学年 50音順]
赤田 萌子(独4年)　石橋 秀斗(英4年)　小川 紗慧(言4年)　清水 莉来(交4年)
原 友里恵(英4年)　穴澤 海杏(律3年)　伊藤 孝太朗(交3年)　岩澤 大知(営3年)
金谷 俊亮(済3年)　川合 くるみ(営3年)　近藤 優羽(律3年)　嵯峨 滉生(英3年)
坂本 航汰(総3年)　関口 祐輝(仏3年)　塚越 泰良(英3年)　服部 朱音(済3年)
福田 優斗(営3年)　宇枝 桃花(環2年)　大森 美咲(言2年)　小室 乃愛(営2年)
鈴木 心遥(仏2年)　住吉 靖葉(律2年)　髙橋 日向(総2年)　富岡 美羽(環2年)
野崎 こころ(環2年)　平松 海璃(営2年)　藤沼 紗未(環2年)　古川 乃愛(独2年)
保泉 陽香(律2年)　米原 冴姫(仏2年)　小瀧 智暖(済1年)　北原 美空(交1年)
塩山 遥(営1年)　待田 陽依里(仏1年)

略称表記(学科) 独…ドイツ語／英…英語／仏…フランス語／交…交流文化／言…言語文化／済…経済／営…経営／環…国際環境経済／律…法律／関…国際関係法／総…総合政策

獨協大学 DOKKYO UNIVERSITY
https://www.dokkyo.ac.jp/

次回は1月号(1月8日発行予定)です

©獨協大学2026／獨協大学〒340-0042 埼玉県草加市学園町1-1／年4回発行